

令和8年度第1回習志野市発達支援サポートネットワーク会議 議事記録

1. 開催日時 令和8年5月22日(金) 午後2時30分～4時00分

2. 開催場所 市庁舎5階 会議室5-1

3. 出席者

【会 長】 こども部(こども保育課) 主査 中山 智子

【副会長】 学習指導課 指導主事 辻田 耕心

【委 員】 健康支援課 係長 石川 由記子、障がい福祉課 係長 橋詰 信一郎

本大久保第二保育所 所長 坂入 直美、谷津南保育所 主任 犬飼 智子

向山こども園 教頭 橋本 寛子、こども家庭課 係長 福田 大志

学習指導課 主任指導主事(係長) 坂井 祐介

総合教育センター 指導主事 矢野 友香里

あじさい療育支援センター 主幹 荒井 直樹

ひまわり発達相談センター 主査 田中 真由美

欠席1人

【事務局】 ひまわり発達相談センター

所長 内村 幸輔、主幹 中神 茂樹、主査 清田 直子、主査 和田 久美子

主任主事 深澤 佑子

4. 議題

(1) 令和8年度 発達に支援が必要な子どもへの理解を深めていくための各課の取り組みについて

(市民協働こども発達支援推進協議会での委員の意見を踏まえて)

(2) その他

5. 会議資料

資料1 令和8年度委員名簿

資料2 習志野市の発達支援施策の立案体制

資料3 習志野市発達支援サポートネットワーク会議設置要領

資料4 発達支援施策推進に向けた中期計画

資料5 習志野市こども発達支援施策一覧表

資料6 令和7年度第2回習志野市市民協働こども発達支援推進協議会 議事録

資料7 令和7年度第2回サポートネットワーク会議議事録

資料8 令和7年度第2回習志野市発達支援サポートネットワーク会議議事記録 補助資料
「5歳児健診について」

資料9-1 令和7年度ひまわり発達相談センター利用者アンケート結果抜粋(乳幼児個別支援計画)
グラフ

資料9-2 令和7年度ひまわり発達相談センター利用者アンケート結果抜粋(乳幼児個別支援計画)自

由記述

資料10 習志野市こども若者まんなか計画【概要版】

資料11 ライフサポートファイルチラシ(未就学児)

資料12 ライフサポートファイルチラシ(小中学校)

当日資料 令和7年度 5歳児健康診査(健康支援課)

6. 議事内容

(1) 会長、副会長の選任

推薦により、会長は中山委員、副会長は辻田委員が選任される。

(2) 開会

(3) 委員自己紹介

(4) 議題

令和8年度 発達に支援が必要な子どもへの理解を深めていくための各課の取り組みについて
(市民協働こども発達支援推進協議会での委員の意見を踏まえて)

議題1 5歳児健診

【健康支援課 石川委員】

- ・令和7年度 実施状況について資料参照(当日資料)。
- ・園医健診は公立9園で実施。受診率はかなり高い。
- ・相談支援者とは、電子申請サービスの問診票の回答で、保護者が“相談をしたい”または健康支援課が“直接連絡して保護者と話した方が良い”と思ったケースに対応した件数を計上。回答者の約半数が対象。相談支援有の内訳は延べ人数となっている。
- ・相談内容の養育面は保護者の悩み、虐待項目に該当する者となっている。
- ・個別健診の受診率は6割程度。医科個別健診の相談支援の内訳は集計中である。
- ・発達の相談よりも養育面の相談が多い。
- ・5歳児健診の心理相談は、母の問診の回答で“心理相談を受けた方がよい”、“園や健康支援課で必要がある”と思われる場合に案内する。昨年は17名が心理相談を利用。その後、ひまわり発達相談センターに繋がった人も把握している。
- ・3歳児健診では、「まだ大丈夫」と言っていた保護者も5歳児健診により、4歳で健診ができる。3歳児健診とは異なった、就学を見据えた支援について、保健師の対応も研修などでスキルアップが必要。
- ・今年度は公立9園に加え、青葉幼稚園、青葉保育園、明德そでの保育園、クニナ奏の杜保育園が園医健診を実施予定。園医健診は、普段の児の様子を先生に聞きながら実施できるので良い。
- ・評価を今年度以降していかなければならない。

【障がい福祉課 橋詰委員】

- ・障がい福祉課との関わりとして、障がい福祉課では福祉サービスの支給決定に繋がる児がどの位いるかといった視点で見ている。
- ・窓口の状況は5歳児健診をきっかけに児童発達支援に繋がったケースは昨年度1件。今年度は確認できていない。
- ・これまでの申請状況を確認すると1歳半健診、3歳児健診をきっかけに繋がるケースが多いように感じる。早い段階で健診を受けることで、福祉サービスの利用に繋がっているのだと思う。早期の段階で課題のある児はサービスに繋がっている。

・今後は、5歳児健診から新たに福祉サービスに繋がる方もいるかもしれないので確認していきたい。既にサービスに繋がっている児の再整理の機会として、今後の支援をしていきたい。

【本大久保第二保育所 坂入委員】

・保護者への実施の目的を理解してもらうために入園資料やポスターを掲示している。不安に今後も丁寧に対応していきたい。
・看護師、担任間で共有することはもちろん、就学の前にこどもの育ちを再確認する機会となる。
・学びの場の選択を保護者と一緒に考えていきたい。外国籍の保護者はより丁寧に対応していきたい。

【向山こども園 橋本委員】

・今年度も公立9園で実施予定。園ではポスターを掲示して周知しており、保護者も関心を示されている。
・昨年の実施状況は在園児が多く半日ほどかかった園もある。健康支援課と反省点を共有しており、時間は改善すると思われる。
・健診前の事前打合せでは、保護者の考えていることを知ることができる良い機会となった。今後の保育に活かしていきたい。
・個別健診は受けたかどうかを園で把握する術がないので、どのように対応したらよいか検討中である。(1歳半健診、3歳児健診は確認している)

【谷津南保育所 犬飼委員】

・健康支援課に用意してもらったワークシート(えんぴつで丸を描く)、医師と子どもが話すのを待つ間に個別にしりとり、じゃんけんをした。医師と子どもの間の問診は1, 2分程度で、その後保育者がこどもの様子や集団生活における困り感について、医師に伝えた。その後医師が担任からの情報をもとに、保護者へのお知らせをしてくれたのは良かった。

【こども家庭課 福田委員】

・5歳児健診後に健康支援課より情報提供を受け、要対協として対応したケースが2件あった。
・多くの部分を健康支援課でフォローしてもらっている。その中でも緊急度が高いケースが繋がる。

(内容) 1件目: こどもの発達面の課題から児を怒鳴る、父母口論

2件目: 父母口論、ワンオペ育児から子どもを叩いてしまった

→家庭訪問等を実施し状況が落ち着いたため、現在はケース終了。

・今後も虐待の予防、再発防止のため、こども家庭課の介入が必要な場合は連携して迅速に対応していきたい。

【あじさい療育支援センター 荒井委員】

・5歳児健診との直接的な関わりはあまりない。あじさいを利用しているこどもは更に低年齢よりあじさいに繋がっている。

【ひまわり発達相談センター 田中委員】

・5歳児健診をきっかけに当センターへ繋がった件数は、現在までに計9件である。昨年度は、健診の実施による相談件数の大きな変動は確認されなかった。

・相談や支援を担当する職員にとって、対象者の健診実施時期や状況の把握は非常に重要である。

・「市の施設であれば情報連携ができている」と認識している保護者が多いことが予想される。職員が事前に健診状況を把握することで、保護者への受診確認や推奨がよりスムーズに行えるようになる。市民からの信頼に応え、安心して相談できる環境を作るために、必要な情報をいただけるとありがたい。

【学習指導課 坂井委員】

- ・昨年度、健診を受けた児が今年度5歳児になり、就学相談に繋がり、教育支援委員会に進み、この後の学びの場を選択する流れになる。
- ・今年度の機構改革で児童生徒指導課と学習指導課に分かれた。特別支援についての連携先は学習指導課となる。
- ・障がいを見つける側面が強いことはあるが、小学1年生でのつまづきが大きくなってしまいうギャップを少しでも埋める。今後の連携の在り方は協議が必要である。

【総合教育センター 矢野委員】

- ・令和7年度までは総合教育センターで就学相談を受けていたが、5歳児健診の結果を受けて相談に至ったケースはなかった。

【こども保育課 中山委員】

- ・現場の意見としては時間がかかったとのことだが、回数を重ねると変わってくると思う。現場の職員が保護者の回答を共有できたことは本当に良かった。
- ・5歳児健診を受けたかどうか園として把握ができていない。健康診断表等に5歳児健診を受けたか否かは欄を設けた方が良いかもしれない。
- ・健診結果の把握方法について検討したい。

【健康支援課 石川委員】

- ・健診を受けた結果の共有の仕方は課題。私立の園長会では5歳児健診の依頼をしている。
- ・母子手帳に結果を書いてもらう等、園の方でも受診したかを確認できる方法を考えていきたい。
- ・未受診者については健康支援課で連絡を続けている。年度で区切るのも3月31日までとなる。以降も連絡がつくまではアプローチしていくつもりではあるが、働いている方も多い。未受診者の状況を把握してどう支援していくかが課題。

【ひまわり発達相談センター 田中委員】

- ・健診の時期などは、どのように把握したらスムーズなのか、どちらの課に尋ねたらよいか。

【健康支援課 石川委員】

- ・園医健診は園より、個別健診は誕生月ごとに通知している。秋頃までに対象者へ案内している。
- ・健診の内容は国から示されている5歳児健診のマニュアルがあるため、共有させていただく。

議題2:乳幼児個別支援計画

【健康支援課 石川委員】

- ・支援計画の活用については、直接関わることはないが、保護者が理解していないことも多いので理解を深められるようにしていきたい。
- ・直接、保護者と関わる職員の理解も経験年数により異なるため、現任教育として、どの職員が対応しても同じように対応できるようにしていきたい。

【障がい福祉課 橋詰委員】

- ・個別支援計画はライフサポートファイルと絡めていきたい。
- ・児童のサービスの支給決定の申請の際、心身及び生活の状況、家庭状況、サービスの利用意向等を聞いている。その際ライフサポートファイルを持参する保護者も多く、その中で個別支援計画が入っており、参考にしている。伝えるのが苦手な保護者もいるため、参考になる。
- ・療育手帳の発行の際、児童から成人に切り替える場合、詳しく聞き取る必要があり、ライフサポートファイルを支援経過を知るための必要な資料として活用している。
- ・障がい福祉課としては、新規交付時、ライフサポートファイルを成長過程の記録として残すよう

勧めている。

- ・将来障害年金の申請をする際の成育歴等を記入する際に活用できる。支援の連続性を支える資料として障がい福祉課も含めて考えていきたい。

【本大久保第二保育所 坂入委員】

- ・年々作成希望の保護者は増えている。クラスに3、4人いる。担任の負担も増えているが、こどものために前向きに作成してくれている。作成の簡略化や作成のポイントを教えてもらえるとよい。

- ・5歳児に進級した時から担任は気になる保護者とは面談を重ねているものの、2学期の運動会の取り組みを経て、こどものことが気になり、教育支援委員会にかけたということもあった。乳幼児個別支援計画をこどもの育ちの共有として、早めに周知して就学に役立てればよい。支援の継続性として「就学、転園時に使える」と言うと保護者が安心する。

- ・2歳児クラスから3歳児クラスへ進級するにあたり不安になる保護者が増えている。ひまわりの巡回相談を利用して、こどもの育ちや支援について保護者や関係機関と共有することで個別支援計画を作成する人も増えている。

【向山こども園 橋本委員】

- ・園からの勧めやひまわり発達相談センターに勧められて作成するという家庭が多い。保護者の思いを聞き取りながら次に繋げることを目的にしているが、スタートまでスムーズにいかないこともある。勧められたものの中身を見たら記入するものが多く気が引けて…という保護者もいる。

- ・外国籍のお子さんについてはかみ砕いて説明したり、代筆したりしている。

- ・小学校への引継ぎはスムーズに行えている。

【谷津南保育所 犬飼委員】

- ・集団が大きくなる4歳児からの支援を見据え、3歳児の後半に保護者に保育の様子を見てもらい、そこから個別支援計画の作成に繋がったり、療育に繋がったりしたケースもあった。

- ・一度作成すると次年度以降の作成は意欲的な保護者が多い。

【こども家庭課 福田委員】

- ・発達面が気になるこどもについては個別支援計画の作成の有無を関係機関に確認している。

- ・小学校低学年であれば就学前の対応の経過等も確認することもある。

- ・必要に応じてこども家庭課でも乳幼児個別支援計画の作成を促している。

【あじさい療育支援センター 荒井委員】

- ・所内では学校の引継ぎの時に有効であろうとの意見あり。

- ・昨年度は3名県立の特別支援学校に進んだが、そこでは独自の支援計画があるため、あじさいで作った乳幼児個別支援計画を受け取ってもらった。

- ・今年度は5名作成している。

【総合教育センター 矢野委員】

- ・個別の教育支援計画は昨年度年長児の相談で乳幼児個別支援計画の作成を確認していた。

- ・“悩んでいるが未作成”や“乳幼児個別支援計画を知らない”方には丁寧に説明した。今年度も学校で困り感が強い場合は一つの手段として個別の教育支援計画の作成(良い点、作成の仕方)を案内している。

【学習指導課 辻田委員】

- ・個別の教育支援計画については今年度研修事業等を行う中で、よりよい在り方を伝えていきたい。

- ・特別支援コーディネーターの中でも経験年数が異なるため、保護者にとってより良い形での周知方法を伝えていきたい。

【こども保育課 中山委員】

- ・乳幼児個別支援計画は大分浸透してきており、作成に前向きになってきている。どのように職員が保護者に伝えていくか、園から学校へ引き継いでいくかが大切。
- ・4課会議で“書くのが大変”という意見が挙がった。市ホームページからダウンロードして入力ができることをもっと伝えていきたい。

【学習指導課:辻田委員】

- ・現実的で無理のないようなやり方を検討していかないといけない。

【障がい福祉課:橋詰委員】

- ・アンケートを取ったことで、うまくいっていると思っていたところが違ったことが分かり有意義だと思った。資料9-1、問16:乳幼児個別支援計画を知らない人が2割いたのが意外だった。問25:習志野市では、支援計画を作らなくても園の先生がしっかりしてくれるという基盤ができているのだと思った。資料9-2から、乳幼児個別支援計画が評価されていることが分かる。一方で、“支援の流れが見えにくい”“保護者からどこが中心か誤った認識がされている”“通級との連携ができていない”のは残念。そこが繋がると、スムーズに支援計画が引き継がれていくと感じた。

【学習指導課 辻田委員】

- ・昨年度まで知的障害特別支援学級の担任をしていた。その際、引継ぎを行う上で教育支援計画を活用していた記憶がある。繋がっていないと保護者が感じたということなので、今後係でも共有していく。

【ひまわり発達相談センター:田中委員】

ひまわりとしても取り組みを考えている。

- ・「個別支援計画」に対する保護者の誤解を解消し、周知を深めるための Q&A を作成する。
- ・外国籍の保護者と個別支援計画を作成する際、現場での丁寧な対応や多大な労力が割かれている現状を考慮し、対応として、理解を促すためにまずは英語版の作成に着手する。
- ・個人情報の取り扱いや他機関との連携における課題があるため、すぐにデジタル化することは難しいが、将来的にはデジタル化の導入も視野に入れる。

議題2 各課の取組

【学習指導課:坂井委員】

資料5について、担当課の変更あり。

- ・88:学習指導課
- ・13、14:児童生徒指導課
- ・59:学習指導課
- ・88:特別支援教育相談は学習指導課。ただし、ひまわりに繋がっているこどもについては総合教育センター(心理)にそのまま引き継いでいく。
- ・就学相談、教育支援委員会の申請方法が変わっている。審議報告はこれまで園が上げていたが、今年度から未就学で特別支援教育を受けるこどもは就学相談を受けてもらい、保護者が上げることになった。詳しくは学習指導課へ。

【あじさい療育支援センター:荒井委員】

- ・令和7年11月に新たな試みとして市内の児童発達支援26か所(あじさい含む)を対象に、ひまわりと障がい福祉課と共催で交流会を実施した。3分の2ほどの事業所が興味を持ってくれた。情報交換や事業所の底上げを目的とし、非常に好評だった。他の事業所の療育の方法が分かってよかった等の意見がもらえた。詳細は令和7年度第二回協議会議事録を参照いただきたい。引き続き定期的に関係したい。

【障がい福祉課：橋詰委員】

・5歳児向けの「放課後等デイサービスを知ろう会」を今年度も実施予定。セルフプランの保護者が多く参加。事業所が一堂に会し事業所の特色を知ることができる。秋口に開催予定。あじさい、ひまわりに周知をお願いしたい。

【児童育成課：番匠委員 代読】

職員の児童理解に関する研修の実施

・毎年、特別支援に関する研修を実施し、経験年数に応じて対象を初級（5年程度まで）と中上級（6年以上）に分けて内容を最適化している。初級では特別支援の基本的な考え方、特性に応じた見立てと関わり方を学ぶ。中上級ではチームでの支援方法やコーディネーターの役割を学び、関係各所とも連携して多角的な児童理解に努める。また、相談員が実際に児童の様子を見て、見立てや関わり方について助言を行うことで理解を深めている。

・①入会前の連携

入会前に児童育成課が保護者・児童と面談を行い、特徴や必要な支援を把握する。

必要に応じて前籍の保育所・こども園・幼稚園と連携し、支援方法を引き継ぐことで、安心して環境に慣れられるように配慮している（今年度は特別支援学校在籍の児童も1名受け入れ）。

・②入会後の連携

学校（担任や教頭）と児童育成課・児童会で定期的な情報交換を行っている。放課後等デイサービスを利用する際は、児童会・保護者・施設間で必ず打ち合わせを行い、引き渡しや情報の共有を徹底している。環境変化による児童の負担を減らし、スムーズな1日の流れを作るため、必要に応じて情報共有や連携を図っている（中抜け対応を含む）。放課後子供教室等とも協議会等を通じて適宜情報交換を行い、各場所で安心して過ごせるよう支援している。

・③職員配置

特定の支援担当職員を限定して配置しているわけではないが、職員の配置を手厚くしており、委託児童会も補助金の対象としている。

・④保護者支援

直接会う機会が少なくても、面談や電話を通じて児童の様子や支援状況、関係機関との連携内容を伝えている。保護者の話を聴くことで不安を軽減し、児童の成長を共有することで安心感につなげている。

・⑤連携の効果

学校や家庭での姿を含めた児童の全体像を把握することで、児童会での適切な支援を導き出せている。1日の流れを円滑にすることで、児童が安心して過ごせる環境が整っている。

（5）決定事項

＜5歳児健診の結果の把握と連携＞

健診未受診者への継続的なアプローチを継続する。また、園側が健診の実施状況を把握できるよう、健康診断票への欄追加等、公立・私立園での確認方法を検討する。

＜乳幼児個別支援計画の推進と改善＞

保護者への周知を強化し、利用率向上を図る。作成負担軽減のため HP からの様式ダウンロードを推奨するほか、保護者向け Q&A の作成、英語版の導入検討、デジタル化の可能性について継続検討する。

（6）その他

- ・第2回発達支援サポートネットワーク会議は、11月20日（金）14時半～開催予定。
- ・上部会議である市民協働こども発達支援推進協議会が7月17日に開催される。そこで、本日協

議した内容を報告する。

・ひまわり発達相談センターでの公開講座が8月4日（火）に決定。プラッツ習志野市民ホールで午後1時半から3時半までの予定。講師は相模女子大学 人間社会学部 人間心理学科 教授 日戸由刈氏となっている。詳細は、チラシや広報紙でお知らせする。